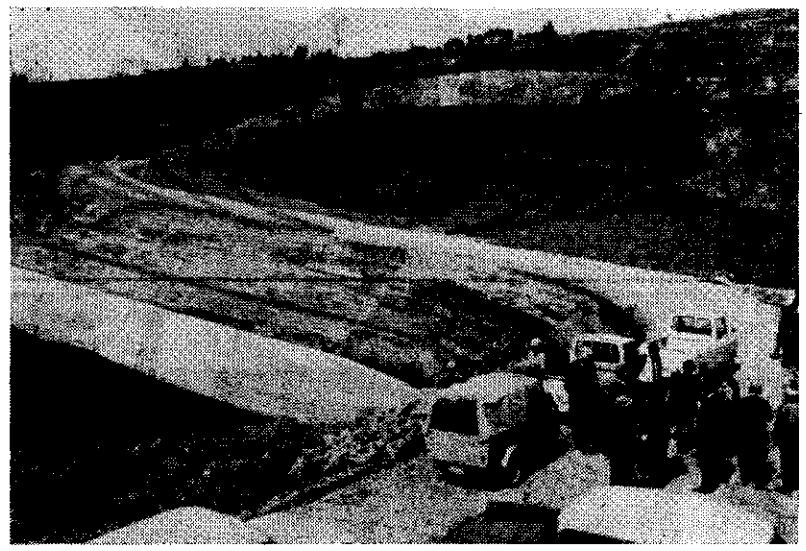
林道芳の元線

第1期工事終わる



内久保大石平から芳の元に至る林道芳の元線の第1期開発工事が右の写真のように終りました。

こんど終つた第1期工事は昨年11月18日から工事にかかり、ことしの3月20に終つたもので、延長580メートル幅員3m60、工費550万（うち補助金357万）をついやしています。

この開発工事は3年間の継続事業として行なわれるもので、完成は42年度の予定です。

この林道が完成すれば、奥地の林産物の開発と運搬などに大きな効果が期待されています。

自衛隊入隊者の壮行会

町と父兄・協力会で開く

町と自衛隊父兄会（黒沢長治郎会長）・自衛隊協力会（柴山俊一会長）では、三月二十六日に、今春高校を終えて自衛隊に入隊する五人の入隊者の「壮行会」を開きました

こんど入隊する人は大字小幡の松井利夫君ほか四人で、陸上に三人、海上に二人入隊します。当日は、自衛隊群馬地方連絡部から係官も出席し父兄会員・協力会員たち二十五人が出席し、入隊者たちを激励しました。

これにたいして、入隊する五人を代表し、松井利夫君が「入隊のあかつきには、本日のこのよろこびと栄誉を深く胸にきざみ、みなさんのご期待にむくいる信念をもつて、び力ながらも国土防衛のため一意専心努力します」と力強くこたえました。

写真は入隊者の壮行会

奥山は名石ブーム

町有林

世はまさに造園ブーム。この造園ブームにのつて、奥山の町有林にも、林産物ならぬ「名石」がゴロゴロし、主客かわつて、目下、静かな名石ブームがわいている。この名石時価1千万円？という通人の声も

は見ておくべしと町議会議員の一行が4月2日に視察した。そこで、「これはよい財源になるぞ」とほくそえんでは見たものの、ままならぬのは世の常。関係筋の許可が明暗の岐路となつている。

〈〉こどもを交通事故から守る運動〈〉

四月八日から四月三十日まで「こどもを交通事故から守る県民運動」が行なわれています。

この運動は、こども、特に新入学（園）児を交通事故の惨禍から守るために学校、家庭を通じて、こどもに正しい交通方法をしつけるとともに、自動車運転者に対しては、歩行者優先の原則を徹底させて、県民総ぐるみでこどもの安全を図ることを目的としております。

「こどもに注意、よいことも注意」をあいことばにして、次のことを守つて、交通事故が少しでも減少するようにこころがけましよう

□新入学（園）児は・・・

① 右側を一列で歩く。

② 横断歩道を渡る。

③ 右と左をよく見て横断する。

こどもに注意・よいことも注意を目標に

④ 手をあげて車が止まつてから横断する。

⑤ 道路へ急に飛び出さない。

⑥ 道路で遊ばない。

□小学校高学年・中学・高校生は・・・

① 新入学（園）児の模範となる通行をする。

② 通学路における集団登下校（園）のリーダーとして注意を払う。

□家庭・学校・保育所では

① こどもに対し正しい交通のしつけをする。

② こどもを伴なつて通学路を通り、危険場所について安全な通行方法を具体的に教える。

③ 忘れ物・遅刻をするとおちつきを失い、交通に対する注意力がなくなるから、このようなことのないようにする。

④ こどもの服装・携帯品は、運転者に目立つ安全色（黒色等）を選ぶ。

□運転者は・・・

① こどもには、特に注意を払い、状況によつては徐行、または一時停止をする。

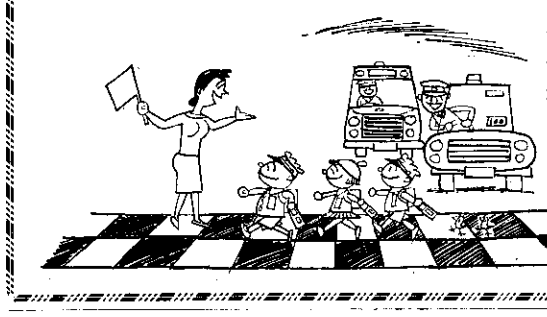
② 横断歩道直前での一時停止をする。

③ 通学路に車をとめておかない。

□すべての県民は・・・

① こどもの危険な状態を見たら、ひと声かけて注意し、あるいは誘導するなどこどもの保護をはかる。

② こどもの正しい通行に危険とめいわくを及ぼす交通暴力を監視追放する



新入学児童
みんなで事故からまもりましょう

特別弔慰金の請求

43年5月31日までに

昨年は、終戦二十周年を迎えましたが、これを機会に国では戦没者に追悼のまことを表わすことになり、遺族の方には特別弔慰金が給与されることになりました。

□給付を受けられる方

昭和四十年四月一日までに戦傷病者戦没者遺族等援護法による弔慰金（五万円または三万円国債）を受けた人で、その遺族のうちだれも昭和四十年四月一日現在、公務扶助料、遺族年金、遺族給与金などを受けていない人が対象になります。

なお、戦没者の子に限り、たとえ弔慰金を受給していなくても、弔慰金名義人（妻、父母、兄弟姉妹など）が死亡などにより、今回の特別弔慰金を受けられなくなつている場合は、これらの人にかわつて受給することができます。

□支給の額

戦没者一人について、三万円の国債が交付され、毎年六月十五日に、三千円ずつ十年間にわたつて支給されます。

□お問い合わせ

役場か県衛生民生部世話課へおたづねください。

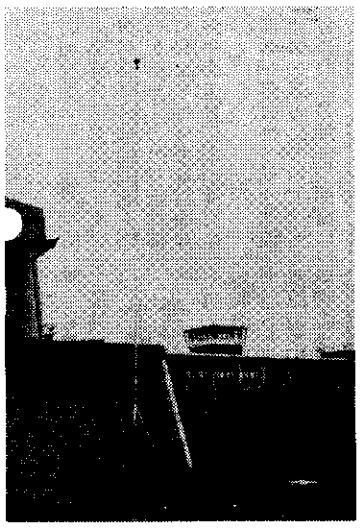
なお、請求書は昭和四十三年五月三十一日までに提出しないと受給できなくなります

福島小に〝つき山〟

福島小学校の正門玄関にみごとな「つき山」が完成しました。

これは同校PTAの奉仕作業でつくつたもので、福島出張所の庭にあつた「松」を移植し、雄川、鏑川からあつめた石を配して、写真のようなみごとな「つき山」が完成したものです。

一中体育館に国旗の掲揚塔



第一中学校の屋内体育館のまえに国旗掲揚塔が設置されました。

これは、福島、新屋地区の体育協会で寄付したもので、鉄筋づくりで、高さ十三メートルで写真のようなステキなものです。

計量はメートルで

4月1日から尺貫法はなくなる

昔から日本の計量単位になつていた尺貫法は、昭和三十四年以降、メートル法に切り換えられてきております。

しかし、長年にわたる習慣のため、土地・建物については、ことしの三月までメートル法と尺貫法との併用（平方メートルと坪）が認められてきたわけです。

ことしの四月一日以降は、土地、建物についての取引、登記申請、公（おおやけ）の証明、業務上の計量単位が、すべてメートル法によらなければならなくなりました。

そこで、一般的な心得として、まず身近な部屋、家屋、土地の広さ、建具の大きさなどを、平方メートルですぐ言えるよう頭の中に入れておくことが必要です。

なお、一平方メートルは約〇・三坪、百平方メートルは一アールで約一畝、百アールは一ヘクタールで約一町歩にあたります。

福島の忠霊塔で遺骨の返納式

福島忠霊塔には、現在まで富岡市となつた星田、君川、田篠地区戦没者の遺骨八十六柱が納骨されていましたが、こんど富岡市に忠霊塔が新たに建設されたので、その返納式が、三月十五日に行なわれました。

当日は、町から町長も参列し、多数の遺族の見まもるなかで忠霊塔がひらかれ、読経回向、焼香などが行なわれてとどこおりなく返納式を終わりました。

鼓笛バンドも誕生

福島小学校に、鼓笛バンドが編成され、三月十二日に福島地内を一周パレードしました

これは、昨年十二月から同校鼓笛バンド編成推進委員会が主体となつて資金あつめを行なつたところ、総額で三十二万八千三百円があつまり、鼓笛楽器一式・楽器格納戸棚を購入して「鼓笛バンド」が誕生したものです。

優良農業青年の表彰式

4月27日群馬会館で

優良農業青年の表彰が、ことしも四月二十七日に群馬会館で行なわれます。農村後継者を育成するため、県と上毛新聞社が行なう第二回めの表彰です。

この日は、県下の市町村長から推せんされた百十二人（男女各一人）が表彰されるわけで式のあとで農業問題の研究発表も行なわれます。この研究発表はどなたも自由に聞くことができます。

大そうじのプラン

四月は清掃の月です。大そうじは、漫然とやらずに、一つの目標＝プラン＝を立ててやりましよう。

① 家の修理箇所の発見＝屋根、天井裏、床下など。

② 蚊、はえ、ゴキブリなどの害虫駆除＝前もつて薬の手配、近所との共同作戦など。

③ たたみを干す＝たんす、戸だな、本だななどを動かす順序をきめてかかる。

一応の目標がきまつたら、たとえば前述の①、②、③の区分で責任者をきめます小人数の家では、隣り近所と話し合つて共同作業でやるのもよいでしよう。

これから多いハシカの症状

春先きから初夏にかけて、こどもの大敵ハシカが流行しやすいといわれます。

症状としては

① バラ色やコゲ茶色の発しんができるのが特色で、十日から十二日の潜伏期間後急に三十八度～四十度近い熱がでる。

② 頭をいたがり、食欲がなくなり、ぐずりだす。

③ 結膜炎をおこして目が充血し、目やにが出る。

④ のどが赤くはれ、せき、くしやみ、はなじがでる。

⑤ このころになると下あごの辺や耳のうしろなどに、初めはまち針の頭ぐらいの白かバラ色のはん点ができ少しずつ大きくなつてコゲ茶色となり、首のまわりから手足にひろがつていく。

これが発熱してから三、四日の症状で、発しんができると熱は徐々に下つていきます。おやつと思つたらすぐ医者に診断を受けることです。